【小樽税務署長賞】

コロナ禍から考える、暮らしと税金

小樽市立菁園中学校　二年
増田　愛美

今、世界では「新型コロナウイルス感染症」が蔓延し、学校の長期休校や企業の休業など私たちの生活に深刻な影響が生じている。そんな中、世の中では政府配布の布マスクなど、この感染症に対する税金の使い道が疑問視されており、私もこのことについて調べてみようと思った。

調べる中で、新型コロナウイルス感染症対策にとって税金はなくてはならないものだとわかった。例えば、医療面。新型コロナウイルスの有無を判定するためのＰＣＲ検査は、検査一回当たりで一万八千円とされているが、その内の七割は保険が適用され、自己負担分の三割も基本的に公費扱いとされており、患者の費用負担は発生しない形になる。この検査の公費と保険適用分は税金でまかなわれていて、もし税金が使われなければ、全て自己負担となってしまう。そうすると、検査を受けることができない人が増え、受けられなかったから助からなかったという人もでてくるかもしれない。この検査に税金が使われ、保険や公費で負担されているから、誰でも平等に検査が受けられ、早急な治療を受けることができるのではないかと感じた。

また、それは経済面でもある。私の住む北海道では、休業要請をうけて、それに従った企業や事業者に「休業協力支援金」が給付された他、六月からは全国民に向けて、一人当たり一律十万円の「特別定額給付金」が給付された。この給付金も国や各自治体の税金でまかなわれており、給付金のおかげで、私の家では生活が支えられ、部活動や勉強などの必要な道具も買うことができ、安心した楽しい生活をおくることができている。このように、税金は企業や事業主だけではなく、私たち国民の生活も支えている大切な存在だと感じた。

私は調べるうちに、この感染症に対する税金の使い道はマイナスなことばかり注目されているが、私たちの生活を守りより豊かにするために大きな役割を果たしていたことを知った。また、新型コロナウイルス対策以外にも私たちの生活の様々な場面の裏側で、税金が使われており、私たちの生活を支えてくれているんだと知ることができた。

このことから、税金を納めるということは「未来の私たちへの備えをしている」ということだと考えた。私は、国民が納めている税金は、国に納めているのと同時に、未来の私たちの生活をより豊かなものにするための備えをしているのだと思う。またコロナ禍の今に、私たちが税金を納めていくことで、誰かが助かったり、支えになることができるかもしれない。なので、私はこれからも税について関心をもち、すすんで学習していきたい。

そして将来は、私もしっかり税金を納めていくことで、明るく豊かな未来になってほしいと思う。